

# 数学診断テストを通しての考察

沖縄県高等学校数学教育会 診断テスト委員会 比嘉 紀朝

## 1. はじめに

沖縄県高等学校数学教育会では、平成元年度より「数学診断テスト」を年に2回実施している(出題内容および目的は下記の通り)。

1. 出題内容：数学Iおよび数学A 他  
(※ A:基礎編 B:標準編 C:応用編の3種)
2. 目的
  - (1) 既習範囲の基礎的・基本的事項がどの程度消化され、定着しているかということ把握し、今後の学習のあり方、改善に役立てる。
  - (2) 生徒各人の数学の到達度を知り、各領域ごとの定着の実態を把握して、各学校における適切な学習指導に役立てる。

毎回、問題ごとに席次や偏差値を出すのはもちろん、小問ごとに正答率(1/10抽出による)も調査している。ただし、学校ごとのランクづけにならないよう、他校との比較は公表しないことにしている。

ところで、学力の低下が危惧されている昨今、本委員会においても(数学診断テストの)平均点の低下が話題にあがるようになってきた。「(指導要領が変わり)不等式が数学Iに上がってきたことで定着率が悪くなっているのでは」「解の公式を用いた2次方程式の平均正答率が低くなっていないか」など、枚挙にいとまがない

以上のことをふまえて、平成18年度第2回数学診断テストは、例年の目的に加え、「本県における数学の力はどのように変化しているのか」というテーマを含めて実施してみた。

## 2. 検証についての試み

今回、実験的に行ったのが「過去に出題した問

題と全く同じ問題での検証」である。ただし、学習指導要領の改訂により、出題できない問題もあったため、実際には「過去に出題した問題のコレクションを中心にしてオリジナル問題を加える」という形になった。

ただし、「受験者数の変化」「対象となる生徒の変化」などから、単純な比較では誤解が生じるため、正答率の推移に有意な差が認められるかを検証することにした。

## 3. 考察

現在、集まったデータをもとに検証中である。大会において考察を紹介したい。